

【自己紹介兼取組紹介4】

「サーキュラーエコノミー指標について」

国立研究開発法人国立環境研究所 資源循環領域
資源循環社会システム研究室 室長

田崎 智宏 氏

自己紹介: 田崎智宏 博士(学術)



国立環境研究所で24年間、学際的に研究
(資源循環社会システム研究室 室長)

- ・リサイクル等の**サーキュラーエコノミー**の分野
(物質フロー、指標、EPR、デポジット制度など)
- ・大きな視点での**サステナビリティ**の分野
(持続可能なライフスタイル、SDGs、統合アプローチ)

専門: システム分析と 政策科学

審議会等: 中央環境審議会委員(家電リサイクル、廃掃法)
循環基本計画の指標や各種リサイクル、2Rの検討会委員
環境省SDGs関連の委員 など

業績: 85+の原著論文、34の書籍、375+の口頭発表、9のデータベースを公表



プロフィールの
ページへ

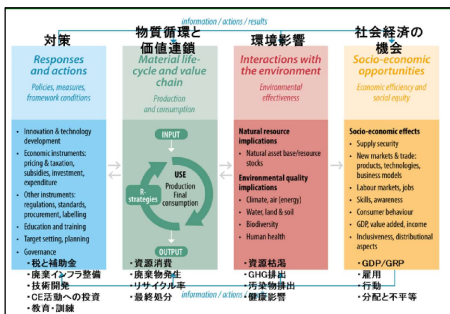
国際的な指標開発の動向



EUのCEモニタリング指標

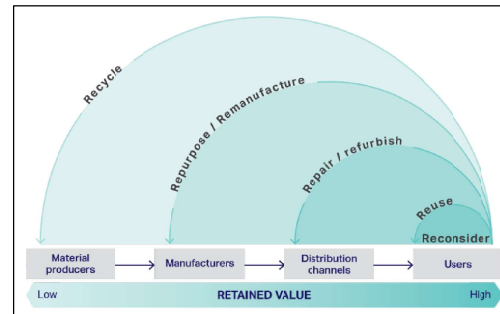


エレンマッカーサー財団のCirculytics指標



UNECE & OECD (2023) Guidelines for Measuring Circular Economy

ISO規格
59000シリーズ
(2024.5)



WBCSDのCircular Transition Indicators (現在はver4)

Systems Change Labによるグローバルレベルの指標データ・プラットフォーム

*WRI(世界資源研究所)
BEF(ベゾス地球基金)などがパートナー&資金提供者

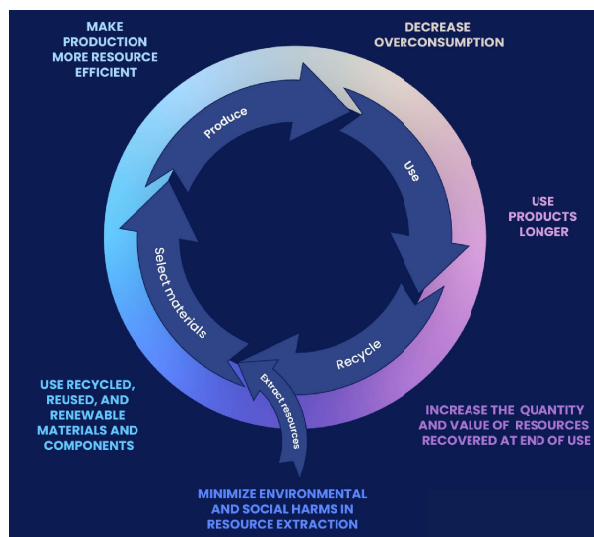


3

サーキュラーエコノミー実現のための6つのシフト

生産の資源効率を高める

過剰消費を減らす



製品をより長く使用する

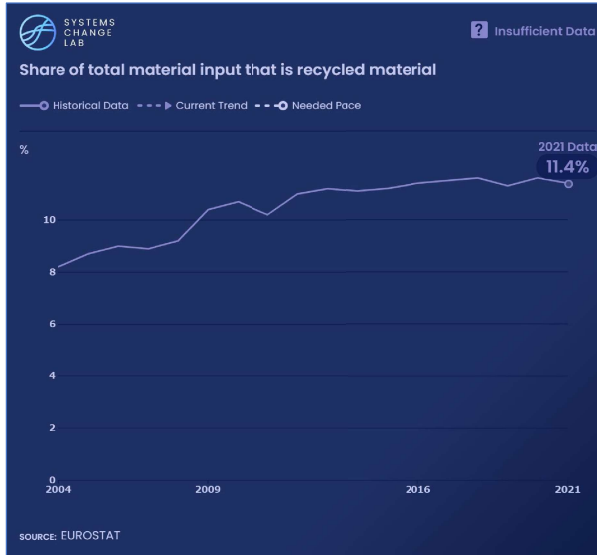
使用後に回収される資源の量と価値を増やす

リサイクル・再利用された、もしくは再生可能な素材や部品を使用する

資源採取における環境的・社会的悪影響を最小化する

ライフステージを超えて、取り組みを「つなぐ」重要性

素材選択段階(上流)



廃棄段階(下流)



5

資源の採取・採掘は、未だ社会問題を引き起こしている

- 効果的な対策が求められている
- 資源利用がどのようにこれらの社会問題と関連しているかの認知を高める必要がある

労働者の深刻な傷害は改善傾向



人権侵害は改善せず



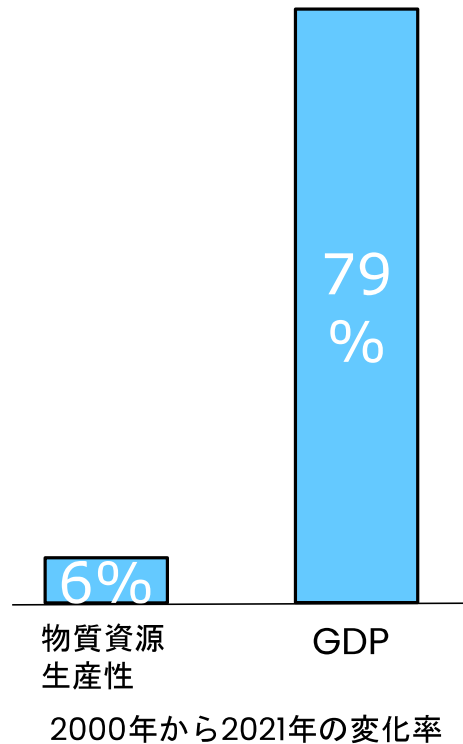
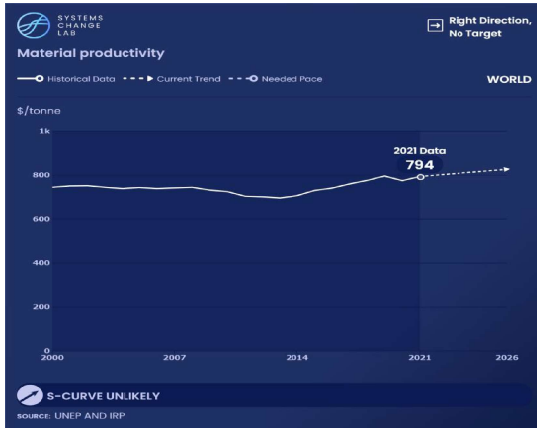
児童労働は改善せず



Source: System Change Lab

6

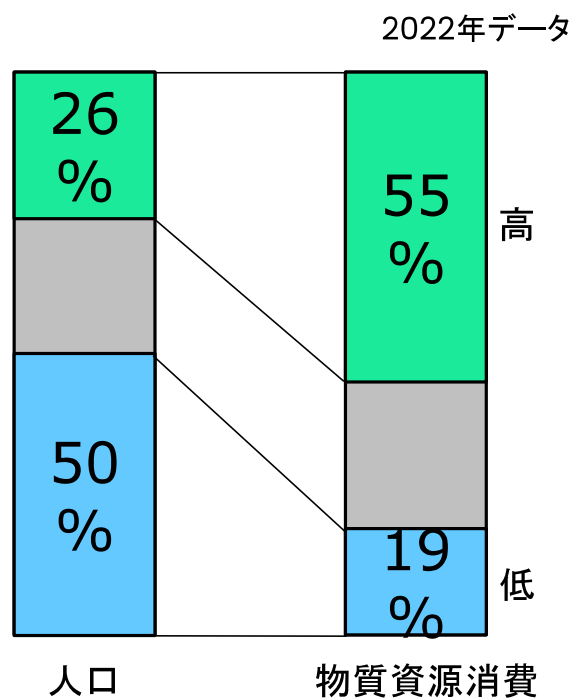
世界の資源生産性は、21年間でたったの6%しか増加していない
この間、GDPは79%も増加した



出典: 田崎&System Change Lab

資源利用の公平性について

- 一人あたり物質フットプリントが大きい世界人口の26%が世界の物質フットプリントの55%を消費している
- 一人あたり物質フットプリントが小さい50%の人口は、世界の物質フットプリントの19%を消費



出典: 田崎&System Change Lab

サーキュラーエコノミーの取り組みの俯瞰

<目的と手段の階層性>

<環境・経済・社会のトリプルボトムラインにおける階層性>

